

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*富田資料：月レーザー望遠鏡建設時のアルバム収蔵

表記の月レーザー望遠鏡は東京天文台（国立天文台の前身）堂平観測所に設置された古由秀先生を中心にしたプロジェクトの望遠鏡である。堂平観測所は、1960年に設置された東京天文台岡山天体物理観測所に続いて1962年に設置された観測所であった。

堂平観測所の主力望遠鏡は91cm天体写真儀だったが、埼玉県の堂平は東京に比較的近く、冬場の晴天率は世界屈指であったこともあり、また東京からのアクセスが容易なこともあって、夜光観測装置、極望遠鏡、ペーカー・ナン・シュミットカメラ、自動流星儀、50センチ彗星写真儀（シュミット望遠鏡）、極望遠鏡、月・人工衛星レーザー観測装置などがつぎつぎに設置され、多くの研究者が観測した日本を代表する観測所の一つであった。筆者も変光星を観測していた頃、その暗いフェーズの観測に月2回は訪れていた。今回は、その中の月レーザー望遠鏡の建設の中心にいた富田弘一郎氏の遺品のアルバムの紹介である。

富田弘一郎氏は、1925年2月生まれで、2006年5月に亡くなったアマチュア天文家にとっては神様のような観測家であった。おそらくアマチュア天文家で富田さんの名前を知らない方はいないであろう。筆者も非常に親しくしていただき、堂平観測所で雨の夜には徹夜で花札の「こいこい」をやった仲であった。

その富田さんの遺品の多くは、出身の川崎天文同好会に譲られたと聞いているが、同会に渡らず残された遺品を残らず国立天文台天文情報センター・アーカイブ室でいただいたのは2011年8月のことであった。譲っていただいた量が半端でないこともあって、なかなか手をつけられないでいたが、今回、その中のアルバム1冊についてデジタルアーカイブとして取込んだので報告する次第である。

そのアルバムは、1975年2月に建設された3.8m月レーザー望遠鏡の研磨から組み上げに至るものである。この月レーザー望遠鏡が設置された堂平観測所が国立天文台によって閉所されたのは2000年3月であった。ハワイに建設された口径8.2mの大型光学赤外線望遠鏡をもったハワイ観測所開所と引き換えのような形でその幕を閉じたのである。月レーザー望遠鏡はそれより8年も前、1992年にオーストラリアに移設され、 γ 線望遠鏡として転身している。

この月レーザー望遠鏡のプロジェクトは成功しなかったプロジェクトである。最新技術を用い、最先端の観測に挑むプロジェクトがすべて成功するわけでもない。さらに不幸だったことは、東京天文台に起きた汚職事件に関係したことであった。

今回のアルバムには、121枚の写真が収蔵されていた。そのすべてをデジタルデータとして取り込んだサムネイルを以下に示す。

いくつかの個々の写真については、サムネイルの後で示す。



IMG_0001



IMG_0002



IMG_0003



IMG_0004



IMG_0005



IMG_0006



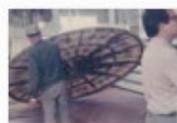
IMG_0007



IMG_0008



IMG_0009



IMG_0010



IMG_0011



IMG_0012



IMG_0013



IMG_0014



IMG_0015



IMG_0016



IMG_0017



IMG_0018



IMG_0019



IMG_0020



IMG_0021



IMG_0022



IMG_0023



IMG_0024



IMG_0025



IMG_0026



IMG_0027



IMG_0028



IMG_0029



IMG_0030



IMG_0031



IMG_0032



IMG_0033



IMG_0034



IMG_0035



IMG_0036



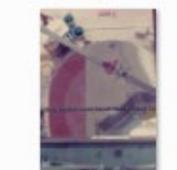
IMG_0037



IMG_0038



IMG_0039



IMG_0040



IMG_0041



IMG_0042



IMG_0043



IMG_0044



IMG_0045



IMG_0046



IMG_0047



IMG_0048



IMG_0049



IMG_0050



IMG_0051



IMG_0052



IMG_0053



IMG_0054



IMG_0055



IMG_0056



IMG_0057



IMG_0058



IMG_0059



IMG_0060



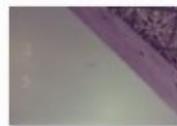
IMG_0061



IMG_0062



IMG_0063



IMG_0064



IMG_0065



IMG_0066



IMG_0067



IMG_0068



IMG_0069



IMG_0070



IMG_0071



IMG_0072



IMG_0073



IMG_0074



IMG_0075



IMG_0076



IMG_0077



IMG_0078



IMG_0079



IMG_0080



IMG_0081



IMG_0082



IMG_0083



IMG_0084



IMG_0085



IMG_0086



IMG_0087



IMG_0088



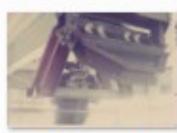
IMG_0089



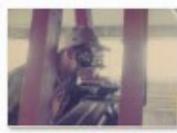
IMG_0090



IMG_0091



IMG_0092



IMG_0093



IMG_0094



IMG_0095



IMG_0096



IMG_0097



IMG_0098



IMG_0099



IMG_0100



IMG_0101



IMG_0102



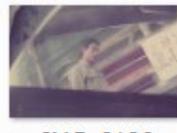
IMG_0103



IMG_0104



IMG_0105



IMG_0106



IMG_0107



IMG_0108



IMG_0109



IMG_0110



IMG_0111



IMG_0112



IMG_0113



IMG_0114



IMG_0115



IMG_0116



IMG_0117



IMG_0118



IMG_0119



IMG_0120



IMG_0121

このプロジェクトの責任者であった古在先生が写った写真もあった（写真1）。



写真1 3.8m鏡の向こうの古在先生
現場の責任者であった富田弘一郎氏の写真もあった（写真2）。



写真2 現場での富田弘一郎氏（右）

この 3.8m 鏡の研磨の検査には、太陽塔望遠鏡のツアイス製のシーロスタットの 60cm 平面鏡の 1 枚が使われた。これを貸し出した時の一方の当事者であったのが筆者であった。

写真 3 が研磨時の検査に用いられた塔望遠鏡の 60cm 平面鏡が写った写真である。



写真 3 検査に用いられたツアイス製 60cm 平面鏡

写真 4 が、検査時の写真である。

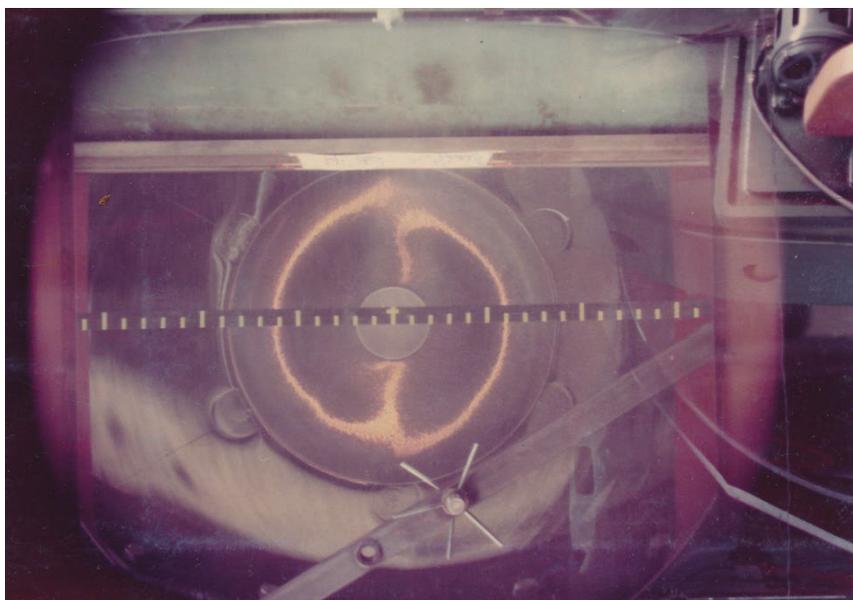


写真 4 健在時の映像

この時、太陽塔望遠鏡から持ち出されたツアイス製 60cm 平面鏡は未だに返却されていない。筆者は国立天文台（東京天文台時代を含む）から流出した歴史的に貴重な観測装置などの回復にも力を入れており、この平面鏡は月レーザー望遠鏡の研磨の検査に使われた後、東京大学天文学教室を経て宇宙科学研究所に渡っていることをつかんでいる。

宇宙科学研究所での用がすんでいるなら、何とか国立天文台に返却いただくよう手を打っているところである。

このアルバムの最後の方には、当然のことながら組み上げられた月レーザー望遠鏡が写っている（写真5）。

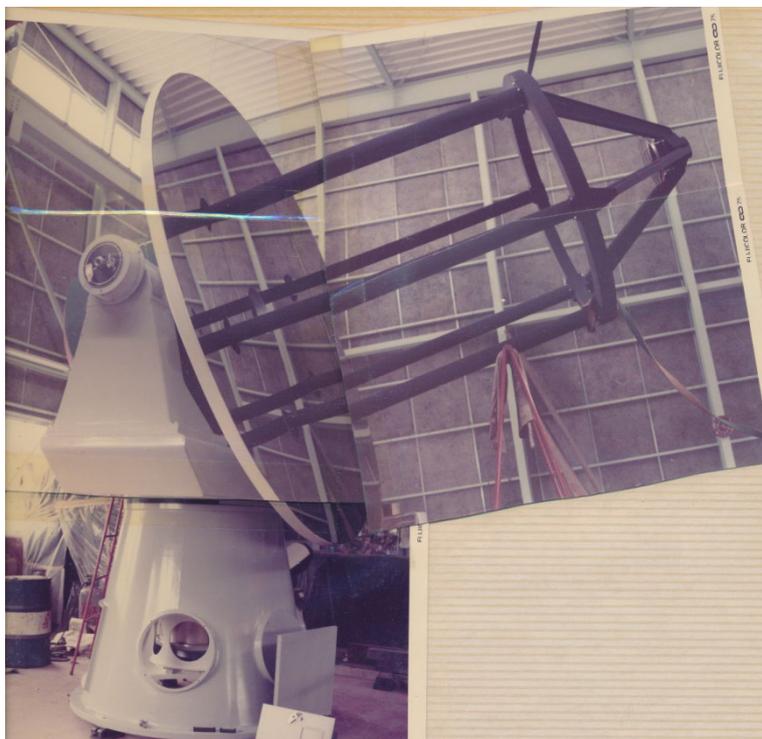


写真5 組み上げられた3.8m望遠鏡

しかし、堂平観測所に設置された姿（写真6）とは少し違っている。



写真6 堂平観測所の月レーザー望遠鏡

写真 5 と写真 6 をよく見ると、副鏡を支えている部分がゲタをはいている。焦点距離が設計値と違い副鏡をずらさねばならなかったことがうかがわれるのである。

月レーザー望遠鏡の建設時の記録写真が正式に残されたかどうか、筆者は知らない。少なくとも、富田さんの遺品として今回、研磨から組み上げまでの写真をアーカイブすることが出来た。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp